

令和5年度全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（概要版）

小豆島町教育委員会

1 調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等維持とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査の対象

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

（3）調査事項

- ① 教科に関する調査
国語、算数・数学、英語（中学生のみ）
- ② 質問紙調査

児童生徒に対する調査および学校に対する調査

（4）調査実施日 令和5年4月18日（火）【共通】 4月28日（金）【中学校「英語 話すこと」】

（5）調査を実施した学校、児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 81人
- ② 中学校調査 1校 91人 （英語『話すこと』75人）

2 調査結果の概況

- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」
全国（公立）の平均正答率と同じ場合・・・「同じ」

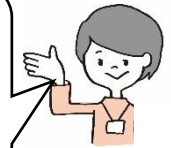
（1）教科に関する調査の全体的な状況

- ① 小学校
 - 国語・・・・・・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。
 - 算数・・・・・・・・全国（公立）の平均正答率を上回った。
- ② 中学校
 - 国語、英語、英語『話すこと』・・全国（公立）の平均正答率を下回った。
 - 数学・・・・・・・・全国（公立）の平均正答率と同じ

(2) 課題のあった設問と今後の指導で大切にしたいこと

	出題の趣旨	今後の指導
国語	○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける。	○文章を読む際に、目的意識をもたせたり、必要な情報に下線を引かせたりする。また、読んだ文章を整理したり、再構成したりすることができるよう、要旨をまとめる時間を設定する。
	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う。	○当該学年の新出漢字だけでなく、既習の漢字についてもドリル等を活用して繰り返し練習させる。また、読書指導を充実させ、日常生活の中で多くの漢字に触れる機会をつくるとともに読書への意欲化を図る。
	○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。	○低学年の段階から、相手意識や目的意識をもたせて文章を書く活動を設定する。また、書いた文章を互いに読み合う活動を取り入れ、相互評価することで書くことに対する充実感をもたせるようにする。
算数	○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えや式や言葉を用いて記述できる。	○伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見付けるような活動を取り入れる。さらに、見付けた規則性を言語化したり、その規則性を基にして、知りたい数量の大きさを求めるような練習を繰り返し行ったりする。
	○ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える。	○日常生活の場面を式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりする活動を意図的に設定する。また、問題場面の数量の関係に着目したり、計算結果を振り返ったりさせることで、計算の性質に気付かせ、仕方を捉えなおす機会になるようにする。

子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。子どもたちが学校で学んでいることに関して、ぜひ、楽しく子どもたちと話したり、一緒に考えたりしてみてください。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率（問題に解答しない割合）は全国（公立）平均を下回った（無回答は少なかった）。

今回、国語14問、算数16問中、無回答率が全国（公立）平均を上回ったのは2問（国語0問、算数2問）であった。以前は、本町児童は記述式の問題に対して無回答の傾向が高かった。しかし、ここ数年は無回答率が減少している。その理由として、時間配分がうまくいったことと、最後まであきらめずに粘り強く問題に挑戦するという児童が増加していると考えられる。普段の学習から解答時間を設定し、限られた時間の中でも力を発揮できるよう取り組んでいくことを継続して行っていくことが大切である。

(4) 質問紙調査の状況<○>と今後の指導で大切にしたいこと<☆> ()内は全国と比較した本町の肯定的回答

自尊意識について

- 「自分にはよいところがあると思うか」(全国を下回った)
- 「将来の夢や目標を持っているか」(全国を上回った)
- ☆児童が自己発揮できる場を多様に設定し、プラスの声かけを行う。

学習に関する関心・意欲

- 「○○の勉強は好きか」(算数だけが全国を上回った)
- ☆教科への興味・関心を高めるために、自分で考え、取り組むことができる学習者主体の授業づくりを行う。

情報教育について

- 「学校で、ICT機器をどの程度使用しているか」(全国を上回った)
- ☆児童のICT機器の使用頻度、活用技能は全国平均を大きく上回っている。今後は、学力向上に結び付くように効果的に活用していく。

家庭における学習習慣等

- 「平日に1日当たりどれくらい勉強をしているか」(「1～2時間」「30分～1時間」「全くしない」が全国を上回った)
- 「休日に1日当たりどれくらい勉強するか」(2時間より少ないが全国を上回った)
- ☆小豆島町の児童は、平日、休日ともに家庭学習の時間が少ない傾向にある。将来の目標に向かって学習や下校後や休日の過ごし方を家庭で話し合う機会をもつことが大切である。

学校の体制

- 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか」(全国を上回った)
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」(全国を下回った)
- ☆今後、より学習意欲の向上を図る授業実践等を行うとともに、児童一人一人に目を向け、寄り添った指導を行っていく。

(2) 課題のあった設問と今後の指導で大切にしたいこと

	出題の趣旨	今後の指導
国語	○聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる。	○日頃から相手意識や目的意識をもたせて文章を書く活動を取り入れ、相互評価する。評価されたことを基に、自分の文章を推敲する時間を設定する。
	○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。	○古典作品を授業で扱う際には、生徒の興味・関心が高まるような課題を設定する。また、扱う古典作品に関連する本や文章だけでなく、音声や漫画等で表現されている作品を活用するなど、指導内容や生徒の実態に応じて教材を選ぶといった工夫をする。
数学	○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する。	○問題場面を立式し、その過程を数学的表現で筋道を立てて説明する場面を授業の中で設定する。また、問題場面が別の式で成り立つかどうかを考察する活動を取り入れる。
	○複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。	○複数の集団のデータ分布に着目し、その傾向を比較して読み取り、読み取れた事柄を説明し伝え合う活動を通して、箱ひげ図の必要性和意味を理解できるように指導する。
英語	○日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る。	○日頃から情報を聞き取る言語活動を設定するとともに、目的に応じて聞き取れているか、聞き取るポイントが理解できているかを確認する活動を取り入れる。
	○「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く。	○正確に書くために、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解させる知識習得の時間を確保するとともに、家庭学習などを利用して書く技能を身に付けさせる。

学力向上のためには、学習を習慣化していくことが大切です。小豆島町の子どもは、スマートフォンやゲーム等の利用時間が長く、家庭学習の時間が短い傾向にあるので、下校後や休日の時間の使い方を家庭でも話し合ってもらい、目標に向かって計画的に学習を継続していくと伸びにつながります。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。小さな伸びを認めていくことで、継続の意欲も高まります。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率（問題に解答しない割合）が全国（公立）平均を上回る問題が多かった。

無回答率は全国（公立）平均を上回る設問が多くあった。特に国語・英語は全問で上回る状況であった。あきらめずに粘り強く問題と向き合うことやわからないままでは終わらせないことを継続して伝えていく。また、時間配分を上手に行うため、時間を設定して問題を解くという時間を授業の中で取り入れていく。さらに、「まとめ」「振り返り」の時間を大切に、学んだことが活かされるような課題を繰り返し行っていくことで学習内容の定着を図る。

(4) 質問紙調査の状況<O>と今後の指導で大切にしたいこと<☆> () 内は全国と比較した本町の肯定的回答

自尊意識について

- 「自分にはよいところがあると思うか」(全国を上回った)
- 「将来の夢や目標を持っているか」(全国を上回った)
- ☆生徒の自己有用感を高める取り組みを続けるとともに、互いの良さを認め合う仲間づくりを行う。

学習に関する関心・意欲

- 「〇〇の勉強は好きか」(全国を数学は上回り、国語・英語は下回った)
- ☆「何のために学ぶのか」「現在の学びが将来どのように生きるのか」をしっかりと伝えていく。

情報教育について

- 「学校で、ICT機器をどの程度使用しているか」(全国を大きく上回った)
- ☆生徒のICT機器の使用頻度、活用技能は全国を大きく上回っている。今後、タブレットを持ち帰り等、家庭学習の質的向上や学力向上に結びつくように効果的に活用していく。

家庭における学習習慣等

- 「計画を立てて勉強しているか」(全国を下回った)
- 「1日当たりどれくらい勉強するか(2時間以上)」(全国を下回った)
- ☆自分の将来に向けて、興味・関心をもった事柄や、自分の目標に向かって、主体的に学習する習慣を身に付ける。授業で学習したことを活用する課題を出す等、家庭学習と学校での学習を関連付ける。

学校の体制

- 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか」(全国を上回った)
- 「生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取り組みを行ったか」(全国を上回った)
- ☆今後も、学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うとともに、生徒一人一人を大切に、寄り添った指導を行っていく。